

上位の政策名	政策目標4 科学技術の戦略的重点化	
施策名	施策目標4 - 7 宇宙分野の研究・開発・利用の推進	
主管課 及び関係課 (課長名)	(主管課) 研究開発局宇宙政策課 (課長: 関 裕行) (関係課) 研究開発局宇宙開発利用課 (課長: 大塚 洋一郎)	
基本目標 及び達成目標		達成度合い又は進捗状況
	基本目標4 - 7 (基準年度: 昭和62年度 達成年度: 平成27年度) 宇宙というフロンティア分野で先端科学技術に挑戦し、「人類の将来につながる知見を獲得」するとともに、「社会経済への貢献」及び「宇宙活動基盤の強化」を目指す。	概ね順調に進捗
	達成目標4 - 7 - 1(基準年度: 平成3年度 達成年度: 平成19年度) 月・地球型惑星、小惑星、磁気圏など太陽系科学探査技術の確立に向けて、第17号科学衛星(LUNAR-A)や月周回衛星(SELENE)の開発、打上げ、運用を行う。また、第20号科学衛星「はやぶさ」(MUSES-C)の運用を行う。	概ね順調に進捗
	達成目標4 - 7 - 2(基準年度: 平成9年度 達成年度: 平成21年度) 宇宙からの天文観測において最先端の観測技術の確立に向け、第21号科学衛星(ASTRO-F)や第22号科学衛星(SOLAR-B)、第23号科学衛星(ASTRO-E)の開発、打上げ、運用を行う。	想定したとおりには進捗していない
	達成目標4 - 7 - 3(基準年度: 平成7年度 達成年度: 平成21年度) 高度な地球観測技術の確立に向けて、陸域観測技術衛星(ALOS)の開発、打上げ、運用を行う。また、米国の地球観測衛星(Aqua)に搭載されたAMSR-E、環境観測技術衛星「みどり」(ADEOS-)の運用を行う。	概ね順調に進捗
	達成目標4 - 7 - 4(基準年度: 平成5年度 達成年度: 平成22年度) 高度な衛星通信技術の確立に向けて、光通信技術試験衛星(OICETS)や技術試験衛星型(ETS-)、超高速インターネット衛星(WINDS)の開発、打上げ、運用を行う。また、データ中継技術衛星「こだま」(DRTS)の運用を行う。	概ね順調に進捗
	達成目標4 - 7 - 5(基準年度: 平成8年度 達成年度: 平成16年度) 宇宙輸送系技術の完成と維持・発展による自在な打上げ手段の確保に向けて、平成17年度からの民間移管に向けて、平成16年度までにH-Aロケットを9号機まで確実に打ち上げるとともに、開発を完了する。	概ね順調に進捗
達成目標4 - 7 - 6(基準年度: 昭和62年度 達成年度: 平成27年度) 日米欧加露の国際協力の下で行われている国際宇宙ステーション(ISS)計画を推進し、有人宇宙活動の基礎的な技術の確立、宇宙環境利用の促進に向けて、我が国初の有人宇宙施設「きぼう」を開発、運用する。	概ね順調に進捗	
現状の分析と今後の課題	<p>(4 - 7 - 1) LUNAR-A、SELENEについては、それぞれ平成16年度、平成17年度の打上げを目指し開発中。「はやぶさ」については、平成15年5月に打上げており、現在、探査対象天体の小惑星に向けて航行中。概ね順調に進捗。</p> <p>(4 - 7 - 2) SOLAR-B、ASTRO-Eについては、それぞれ平成17年度、平成16年度の打上げを目指し開発中。ASTRO-Fについては、平成15年度の打上げを目指し開発を行っていたが、試験中に不具合が見つかったため、打上げ年度の変更を検討中。なお、これに伴い、SOLAR-Bの打上げ年度の変更を検討中。想定したとおり進捗していない。</p> <p>(4 - 7 - 3) ALOSについては、平成16年度の打上げを目指し開発中。Aquaに搭載されたAMSR-Eについては、平成14年5月に打上げられており、観測データの取得、一般への配付が行われている。「みどり」については、平成14年12月に打上げており、観測データの取得や「こだま」との衛星間通信実験を行っている。概ね順調に進捗。</p> <p>(4 - 7 - 4) ETS-、WINDSについては、それぞれ平成16年度、平成17年度の打上げを目指し開発中。OICETSについては、平成17年度の打上げを目指し準備中。「こだま」については、平成14年9月に打上げており、「みどり」との衛星間通信実験を行っている。概ね順調に進捗。</p>	

	<p>(4-7-5) 平成14年9月にH-Aロケット3号機、12月に4号機、平成15年3月に5号機を打上げ成功。平成17年度からの民間移管に向けて、開発を継続中。概ね順調に進捗。</p> <p>(4-7-6) ISSの日本の実験棟(JEM、愛称「きぼう」)については、米国のISS予算の超過に起因するスケジュール見直しの動き等を踏まえ、国際調整を経て、平成16年度、17年度で3回に分けて打ち上げる予定を、平成17年度、18年度、19年度の打上げに変更した。しかし、ISS本体結合部との実機組み合わせ試験実施のため、平成15年6月に与圧部の米国への輸送が終了するなど、我が国の担当する「きぼう」の開発は予定どおり行われており、概ね順調に進捗。なお、米国のスペースシャトル「コロンビア号」の事故により、ISSの組立てスケジュールに遅延が生じている。</p>					
基本目標達成に向けての進捗状況	<p>宇宙分野の研究・開発・利用の促進にあたっては、国の存立の基盤となる研究開発分野であり、戦略的に推進することが重要であるとの認識の下、積極的に推進することとしている。このため、我が国を代表する宇宙機関である、宇宙科学研究所、航空宇宙技術研究所及び宇宙開発事業団を統合し、新たに、中核機関となる独立行政法人宇宙航空研究開発機構を設立することとした。第155回国会において独立行政法人宇宙航空研究開発機構法が成立した。現在、宇宙開発委員会において、宇宙航空研究開発機構の中期目標の基となる「宇宙開発に関する長期的な計画」の策定に向けた審議を行っているところである。</p> <p>また、衛星やロケット等についても順次開発を進め、確実な打上げ、着実な運用を行っているところである。</p> <p>個々の達成目標について、ほぼ概ね順調に進捗にしていることから、基本目標についても概ね順調に進捗している。</p>					
今後の課題	<p>平成15年10月の新機関設立に向けて万全の準備を行う。</p> <p>今後も引き続き衛星等の開発を行い、確実な打上げを行うとともに、既に打上げられている衛星について着実な運用を行う。また、H-Aロケット能力向上やLNG推進系の開発を行い、自在な打上げ手段の確保に向けた取り組みを進める。</p>					
評価結果の15年度以降の政策への反映方針 (政策評価法第11条に基づく総務大臣への通知事項)	<p>3機関の研究開発体制の一段の強化、効率化を図るために3機関を統合し、独立行政法人宇宙航空研究開発機構を設立。</p> <p>宇宙科学を着実に実施するため、引き続き宇宙からの天文観測や太陽系科学探査を実施。引き続き高度な地球観測技術や衛星通信技術の確立のための衛星開発や運用を実施。</p> <p>H-Aの民間移管に向け、H-Aロケットの信頼性向上を図るべく「信頼性革新プロジェクト」に重点化。</p> <p>H-A能力向上型の開発を民間に主体性を持たせた開発プロセスで開始。</p> <p>LNG推進系の開発を民間主導のGXロケットプロジェクトにより実施。</p> <p>国際宇宙ステーション計画の国際的見直しを踏まえつつ、引き続き着実に推進。</p>					
指標	指標名	10	11	12	13	14
	H-Aロケット打ち上げ数 (達成目標4-7-5関係)	-	-	-	2	3
参考指標	打上げられた衛星数 (達成目標4-7-1、2、3、4関係)	ISAS 1	0	0	0	0
		NASDA 0	0	1	2	4
	運用中の衛星数 (達成目標4-7-1、2、3、4関係)	ISAS 6	6	6	5	5
		NASDA 7	4	2	3	7
備考						

# 施策目標4 - 7 宇宙分野の研究・開発・利用の推進

達成目標4-7-1:  
月・地球型惑星、小惑星、磁気圏など太陽系科学探査技術の確立に向けて、第17号科学衛星(LUNAR-A)や月周回衛星(SELENE)の開発、打上げ、運用を行う。また、第20号科学衛星「はやぶさ」(MUSES-C)の運用を行う。

達成目標4-7-2:  
宇宙からの天文観測において最先端の観測技術の確立に向け、第21号科学衛星(ASTRO-F)や第22号科学衛星(SOLAR-B)、第23号科学衛星(ASTRO-E)の開発、打上げ、運用を行う。

達成目標4-7-3:  
高度な地球観測技術の確立に向けて、陸域観測技術衛星(ALOS)の開発、打上げ、運用を行う。また、米国の地球観測衛星(Aqua)に搭載されたAMSR-E、環境観測技術衛星「みどり」(ADEOS)の運用を行う。

達成目標4-7-4:  
高度な衛星通信技術の確立に向けて、光通信技術試験衛星(OICETS)や技術試験衛星型(ETS-)、超高速インターネット衛星(WINDS)の開発、打上げ、運用を行う。また、データ中継技術衛星「こだま」(DRTS)の運用を行う。

達成目標4-7-5:  
平成17年度からの民間移管に向けて、平成16年度までにH-Aロケットを9号機まで確実に打ち上げるとともに、開発を完了する。

達成目標4-7-6:  
日米欧加露の国際協力の下で行われている国際宇宙ステーション計画を推進し、有人宇宙活動の基礎的な技術の確立、宇宙環境利用の促進に向けて、我が国初の有人宇宙施設「きぼう」を開発、運用する。

## 宇宙というフロンティア分野で先端科学技術へ挑戦

・地球型惑星を中心に探査、中長期的には探査対象を拡大

・宇宙及び生命の起源に迫る観測を実施

・地球環境の国際的な定常観測システムの構築に貢献  
・データ処理・配布システムの改善

・通信サービスの拡大に貢献  
・衛星測位の要素技術の確立

・自在な宇宙開発活動の実施  
・宇宙産業の国際競争力強化

・新材料・新医薬研究  
・ISS一般利用の推進  
・有人宇宙活動のための基盤的技術の習得

人類の将来につながる知見を獲得

社会経済への貢献

宇宙活動基盤の強化